

社地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年11月18日（金） 19:00～20:20

2 会 場 社地区公民館

3 出席者 地元出席者 16名

市側出席者 18名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、綱田都市整備部長、山中健康・子育て推進局次長、奥村上教育委員会事務局次長、森山危機管理課長、岡部秘書課課長補佐
<用瀬町総合支所> 田中支所長、沖田副支所長（司会）、谷口市民福祉課長、坂本産業建設課長

<事務局> 岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

（中核市推進局長）※チラシに基づき説明

5 都市計画マスタープランについての説明

（都市整備部長）※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 社駅前整備について

<地域課題>

社地区活性化の為、JR因幡社駅前広場の整備をお願いしたい。

1. 駐輪場の支柱が腐食し倒壊の恐れがあるので、小型化し移転新築をお願いしたい。
2. 社駅前広場を整備し、路線バスの発着の起点としていただきたい。
3. 鳥取市都市計画マスタープランの中に社地区を追加していただきたい。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

1. 駐輪場の支柱が腐食し倒壊の恐れがあるので、小型化し移転新築をお願いしたい。
駐輪場につきましては、老朽化が進んでいることから撤去新築をするよう検討します。
2. 社駅前広場を整備し、路線バスの発着の起点としていただきたい。
鳥取市南部地域におきましては、利便性が高く効率的で持続可能な公共交通を目指し、平成24年からバス路線網を再編してきています。佐治・用瀬地域については、用瀬駅前を交通結節点として乗継拠点の整備を行ってきました。新たに社駅前を乗継拠点とすることは困難ですが、当面、用瀬地域の乗合タクシーについて、より住民の皆様の生活に即したダイヤとなるよう検討していきたいと考えています。

3. 鳥取市都市計画マスタープランの中に社地区を追加していただきたい。

マスタープランにおける都市づくりの理念として、市民サービスの拠点として、中心市街地を「中心拠点」、各総合支所周辺等を「地域生活拠点」と定め、各拠点や「その他の集落地等」を利便性の高い公共交通ネットワークでつなぐ「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を本市の将来像としています。

社地区については、都市計画マスタープランでは「その他集落地」に位置付けるとともに、総合計画や鳥取市中山間地域対策強化方針等の中で必要な対策を進めてきたところです。

今後とも地域が主体となって市や各種の事業者・団体と協力し役割分担をしながら各種サービス機能を確保する取り組みなどを推進することにより、安心して住み続けられる仕組みづくりを推進していきます。

(地区公民館長)

2項目目について、地区の思いを発表します。

JR因幡社駅前には、かなり広い空き地があります。JR所有の土地で、昔は宿舎が2棟あった所です。そこを整備し、バスの待機所と発着点にしてほしいです。時刻表を見ると、現在、用瀬までのバスは30分に1本程度運行されていて、1時間か2時間に1本は快速が運行されています。JR用瀬駅の拠点からJR因幡社駅までは、自動車のトリップメーターで計測すると4.1kmあり、その間に社方面のバス停は駅前を入れて9か所、鳥取方面のバス停は8か所あります。また、用瀬小学校のすぐ上手にあるバス待機所からJR因幡社駅まででも2.9kmありますので、JR因幡社駅が発着点になれば、バス停の近くに住んでいる方にとっては便利になると思います。

経費の問題や、JRとの交渉、国土交通省への認可申請という課題が出てくるとは思いますが、何とか実現してほしいと思っています。都市計画マスタープランは、概ね30年後の鳥取市の将来像とのことですが、30年後では間に合いません。3年後ぐらいには何とかできるよう検討してほしいと思います。

現在もデマンドバスがありますが、高齢の方にとっては予約も難しく、予約して出かけても帰る便がないような状況です。また、大村地区にある医院までタクシーで行くと、1,240円必要です。一度や二度の利用ならよいかもかもしれませんが、高齢者がその金額を支払うのはなかなか大変です。社地区に30分に1本でもバスが通れば、通院の帰りに用瀬のまちなかに立ち寄り、買い物をして帰ることもできるようになります。ぜひ検討をお願いします。

社地区には特急列車も走行し高速道路も通っていますが、社地区は全て通過です。また、鳥取自動車道は、用瀬インターも智頭インターも距離が6kmあります。社地区は鳥取市の南の関所ですので、ぜひ大事にしてほしいです。

(都市整備部長)

駐輪場の支柱については、私どもも、柱の何本かが錆びて穴が空いている状況を現地確認しましたので、今後、更新を検討したいと考えています。ただ、かなり大きな施設です

ので、利用状況や将来的なことも踏まえた上で、適切な規模での更新を検討したいと思っています。

次に、バスの延伸と因幡社駅前での乗り継ぎについてです。本市では、この15年間でバス利用者が半減しており、バスを維持していくことが厳しい状況にあります。そのような中で、鳥取市南部地域の皆様の交通手段を確保するため、利便性が高く効率的で持続可能な公共交通を目指して、平成24年にバス路線網の再編を行いました。佐



治用瀬地域については、鳥取地域からの幹線の起終点となる用瀬駅前と支線等との乗り継ぎや、バスとJRとの乗り継ぎを目的として、乗継拠点の整備を行っています。

現在、新たに因幡社駅前を乗継拠点とすることは困難だと考えていますが、バス路線の再編に併せて、乗合タクシーや、先ほど地区公民館長からお話があったデマンドバスなどを導入しています。地域の皆様の生活のリズムに合うような、そしてもう少し利用しやすいダイヤの見直しなどを、総合支所と連携し地域の皆様と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、都市計画マスタープランの中では、社地区を「その他の集落地」に位置付けており、これまでも、総合計画や鳥取市中山間地域対策強化方針等に基づいて、地域コミュニティ活動の拠点である地区公民館などの取り組みへの支援を進めてきたところです。今後とも、地域の皆様を主体として、市や関係団体と協力し役割分担しながら、安心して住み続けられるまちを確保していくような仕組みづくりについて取り組んでいきたいと考えています。

(地元意見)

2つめのバスの話の中で、「地域と支所が連携を取ってダイヤの見直しを」との説明がありました。

私の町内会から、昨年と今年、路線バスのダイヤについて地区要望を提出しています。バスが10分でも早くなれば高校生が朝の通学に利用できるのですが、現在、通学に合う時間帯のバスがありません。下校の時間に全便を合わせることはもちろん無理ですし、小学校や中学校のことも考えなければいけません。高校生の利用が一番多いと思うので、高校生がJRから乗り継ぎできるダイヤを考えてほしいです。

(都市整備部長)

ご意見として受け止めさせていただきます。調整等も必要となりますので、総合支所とも連携を図りながら取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございます。

(地元意見)

バス路線網の再編は、用瀬発着ということになり社地区は置いていかれたので、社地区にとってあまり利益がなかったのです。特に、私は金屋に住んでいますが、金屋から用瀬の発着場まで行こうと思うと2kmは歩かなければいけませんし、夜到着してから家まで歩

いて帰ることもできないと思います。タクシーを利用すればよいかもしれませんが、現在、用瀬にはタクシー会社もなくなり、事前に電話予約しておかなければ来てくれません。特に夜はそうです。

公共交通が大切なのは分かりますが、自動車を使う生活を一度経験してしまうと、公共交通を利用する生活というのは非常に制約が多い感じがします。高齢になると運転が難しくなることなどを考えると、今から公共交通に乗って慣れなければいけないかなとは思いますが、やはり今の交通システムは利用しづらいと思います。例えば、デマンドバスでは電話予約をしなければいけませんが、予定が何時に終わるか分からないのに次の予約を入れなければならず、とても煩雑で利用しづらいです。せめて社地区を発着点にすれば、少しは利用しやすくなるのではないかと思います。

現在の交通システムは、今後人口が減少すれば、ますます利用しづらくなると思います。それで、なるべく長く自分で運転しなければならないかなと思うのです。

(都市整備部長)

デマンドバスを導入している地域からは、利用方法に関するご意見をいただきます。中でも、家から予約をするのはよいが、出先から予約をするのは大変であるといった意見はよくお聞きしており、1つの課題としては受け止めています。

ギリギリのところではバス路線の維持を図っていきたいということで知恵を絞ったのが今の状況であり、これが最終形であるとは考えていません。実際の利用状況等により、ダイヤの見直しや他の方法、例えば他県では、「UBER（ウーバー）」という、インターネットを活用した自動車の配車サービスを行っている所もありますので、様々な手法の中で地域にとって何が一番利用しやすいのかということも、地域の皆様と一緒に考えていきたいと思います。

併せて、鳥取市内でも、南部地域ではデマンドによる乗合タクシーという形をとっていますが、他地域では、地域のNPO法人がバスを運営している所もあります。何がベストな選択であるかは地域によって条件が異なりますので、様々な可能性を含め、少しずつ改善していきたいと思います。

(総合支所長)

平成24年のバス路線再編から5年が経過するのに伴い、見直しを図っていかなければならないと考えています。本庁交通政策課との話の中で、現在のバスの時間帯のことや、用瀬循環線は予約が中心になっていますが、予約を取るという方法がよいのかということも含め、やはり地域の皆様の声を聞きたいという話が出ました。そこで現在、総合支所の管理職が中心となって各地域に出向き、皆様の声をお伺いしているところです。11月初旬から12月中旬頃にかけて、老人クラブやサロン等でお話を伺う予定です。先ほどご意見があったように、高校生の対策もあると思いますので、そういったご意見も十分お伺いしたいと考えています。

総合支所内部の検討の中では、もう少し循環できるような仕組みにして、時間も1時間空けないような運行ができればとも考えていますが、10人乗りの循環バスは佐治町との調整も必要ですので、そこも踏まえながら、皆様のご意見にできるだけ沿うよう検討し、

本庁交通政策課とも協議しながら取り組んでいきたいと思ひます。

2 社保育園の跡地利用について

<地域課題>

用瀬町内3保育園の統合後の跡地利用はどうなるのか。

- ・建物の利用方法（貸借等）
- ・更地にするのか
- ・管理は（地元、民間への売買等）
- ・市で利用する場合の計画は

<担当部局の所見等>

【健康・子育て推進局】

用瀬地域3保育園の統合後の跡地利用については、市の計画を含め具体的なことは何も決まっています。本市としては、地域の皆様がいろいろな目的で有効に活用していただくことが望ましいと考えており、今後については総合支所を通して、地域の皆様と協議させていただきたいと考えています。

（健康・子育て推進局次長）

社保育園、大村保育園、用瀬保育園の3園については、園児数の減少に伴い、年齢に応じた保育が困難になってきているという状況にあります。また、社保育園は築29年が経過しています。老朽化などによる小規模な修繕も行っていますが、大規模な修繕を行い、良好な保育環境を整備することが必要になってきています。

このような状況で、平成25年度から、地域振興会議での協議や3園の保護者との協議を進めてきました。そして、平成27年1月に「3園合同の園を新設する」という要望書が提出されたことを受け、現在、3園統合の園舎の整備を進めているところです。

現在は、平成31年4月頃の開園予定で進めており、開園後、社保育園の園舎は残ることになります。跡地利用については、市の計画を含め具体的なことはまだ何も決まっていますが、地域の皆様の意見を尊重し、いろいろな目的で有効に活用していただくことが望ましいと考えていますので、総合支所を通して地域の皆様と協議させていただきたいと考えています。

（地元意見）

跡地利用というのは建物を壊してということですか。それとも、築29年が経過しているということであれば耐震問題や構造的な問題があると思うので、改築しなければ利用できないといったことも考えなければいけないのか、どう考えればよいのでしょうか。

（健康・子育て推進局次長）

そのあたりも、市では何も計画はありません。園舎は昭和62年の建築で築29年が経過していますが、鉄筋平屋建てで耐震基準も満たしています。たしかに耐用年数というものがありますが、それは使用できる年数とは異なります。園舎はまだ利用できますので、

取り壊して更地にするといったことは、現時点では全く考えていません。地域の皆様に有効に活用していただければと考えています。

(地元意見)

この園舎の屋根はかなり複雑な形状をしていて、しょっちゅう屋根を修理していました。耐震基準は満たしているということですが、何をするにしても屋根が傷んでいては駄目です。例えば、雨漏りがしないよう屋根を修繕することは可能でしょうか。

(深澤市長)

担当次長の回答のとおり、現時点で本市として活用方針を打ち出しているわけではありません。何より、地域の皆様から、「こういった活用ができたらい」というご意見があれば、私はそのご意見を尊重したいと思います。また、活用に当たり、屋根も含めて若干の改修が必要となれば、それは検討したいと思います。

この社保育園は昭和62年建築ですので、新耐震基準で建設されています。耐震性は問題ありませんので、有効に活用していくべきではないかと思えます。今後の活用策については、一緒になって考えていきたいと思っていますので、お考え等があれば総合支所にお伝えください。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

用瀬町民会館が雨漏りしています。今年の夏の雨の日に、会合に出席するため町民会館に行きましたが、いたる所にバケツがあったり新聞紙が敷いてあったりと、雨漏り対策がしてありました。建物は鉄筋コンクリート造ですので、長期間にわたり雨が入ると、鉄筋が腐食して劣化が早まると思えます。

早く修繕してほしいと依頼しており、平成29年度には修繕できると聞いていますので、29年度に入ったらなるべく早めをお願いします。用瀬町の全町的な会合は、町民会館でしか開催できません。古いですが重要な施設ですので、長く使用するためにも早めの修理をお願いします。

(教育委員会事務局次長)

現地を確認したのは今年度に入ってからでしたが、かなり前から雨漏りがあったのではないかと思います。その後、9月には建築住宅課による現地確認も行いました。

本市としても、町民会館を大切な施設と考えていますので、現在、平成29年度当初予算に計上する準備を進めているところです。予算の策定作業はまだこれからですので決まっていますとは言えませんが、早急な対応が必要だと考えていますので、抜本的な対策を行うことで今後も町民会館が長く使用できるよう、来年度には何とか対応したいと考えているところです。

(地区会長)

社地区だけではなく市全体の話なので回答はできないと思いますが、地区公民館長と地

区公民館職員は一所懸命頑張っています。何とか処遇の見直しをお願いします。担当部署に相談したいと考えています。

(総合支所副支所長)

地区公民館長と職員の対応については、ご意見として承らせていただきます。

(地元意見)

本日の地域づくり懇談会の冒頭に、都市計画マスタープランの説明がありました。私には、地域の拠点に皆が集まって住むような計画を立てるという話に聞こえましたが、社地区は限界集落がたくさんできています。おそらくあと何年かすれば各集落で人口が減少し、存続が難しくなると思いますが、市は、例えば用瀬地区の辺りに住民を集約するようなことを考えているということでしょうか。

(都市整備部長)

先ほどご説明したのは、まちについては、市街地が外円状に広がっているのでコンパクトに集約し、集落地においては将来にわたって住み続けられるようにということです。

人口が減少していく中でも、地域に愛着を持って「ここに住み続けたい」と思われることは当然だと思います。そのような中で、ある程度の商圈もあり難しいかもしれませんが、例えば、地域の皆様が空き家を利用した飲食店に取り込まれるようなことも今後は主流になってくるだろうと思いますし、そういうことを、市としてもしっかり応援していきたいということです。

決して用瀬地区に移動してくださいということではありません。そのために、十分ではないかもしれませんが、バスも各集落間、市から用瀬周辺、地域生活拠点への接続ということで頑張って運行しているところです。

(地元意見)

本日の地域づくり懇談会でもらった中核市移行のパンフレットを見ると、人口が20万人以上というのが移行の要件のようです。しかし、第10次鳥取市総合計画概要版を見ると、平成27年の人口は19万2,300人となっています。見通しでは今後も20万人を超えることはないようですが、20万人に満たなくても中核市には移行できるのですか。

(中核市推進局長)

鳥取市は従来「特例市」に指定されていましたが、平成27年4月の法律改正によって特例市の制度がなくなりましたので、現在、特例市ではなく一般市に戻っています。また、この法律改正に併せて、中核市移行の人口要件が30万人以上から20万人以上に緩和されていますが、さらに従来特例市であった市は、平成27年4月から5年間であれば人口が20万人を満たしていなくても中核市に移行することができます。逆に言えば、この期間を過ぎると、再び人口が20万人以上に回復しなければ中核市には移行できないということです。この期間内の中核市移行を目指して取り組みを進めているところです。

(地元意見)

本日の地域づくり懇談会の冒頭に中核市移行についても説明がありました。中核市に移行しないと周辺から取り残されるとの話がありましたが、移行しないとどのようなデメリットがあるか教えてください。デメリットを聞いていた方が、移行する方向でもう少し弾みがつくのではないかと思います。

(中核市推進局長)

中核市移行とは、移行によって圏域の中心都市という位置付けになり、周辺自治体と一緒に圏域全体の活性化に取り組んでいくということです。そして、そういった圏域の活性化や中心都市の拠点化等の取り組みに対して、国が財政面等で支援していくということです。

中核市に移行しないことのデメリットとのことです。全国的に人口減少が進行している中、何とか地域の拠点性を確保し人口の流出を防いでいこうと、現在、各自治体がそれぞれに取り組んでいるところですので、仮に鳥取市が中核市ではなく拠点性もないということになれば、山陰地域の中心性は、同じく平成30年4月の中核市移行を目指している松江市の方がどんどん高まっていくと言えらるでしょうか。例えば現在、鳥取西道路が建設されていますし新幹線の話も出ていますが、そういったインフラ整備において東部の方が置いていかれることも懸念しています。つい先日は、選挙の合区問題もありました。

いずれにしても、中核市として様々な政策を立案、実行することで、市民の皆様へのサービスをますます充実させることが、中核市移行の目的です。将来に向かっての展望を築く上でも、基礎を作っていく上でも大変重要なテーマだというふうに考えているところです。

(地元意見)

現時点で、中核市に移行しないという選択肢はないのですね。

(深澤市長)

今は移行しないという選択、あるいは今後も移行しないという選択もあると思いますが、移行しなかった場合、将来の鳥取市民に「その時にいた者は何を考えていたのだ」と言われるのは間違いないと思います。

中核市移行によって便利になることは確実にあります。例えば、今まで県が担当していたような市民の皆様に関わる手続き等も、中核市移行によってほとんどが鳥取市役所で手続きできるようになりますので、非常に分かりやすく、そして早く便利になるということは言えると思います。また、インフラ整備の面でも、鳥取市が「県庁所在都市で以前は特



例市だったが現在は一般市」であるのと、「鳥取県や山陰地方の中心となる中核市」であるのとでは、大きな違いがあると思います。中核市であれば、例えば道路にしても鉄道にしても、圏域の中心となる市だから整備しなくてはならないということになると思います。全国の他都市を眺めてみても、違いは確実にあると思っています。

この中核市移行において、鳥取市には、鳥取市だけではなく鳥取市を含む因幡圏域1市4町、あるいは兵庫県北但馬の2町を含めた1市6町の圏域の中心となり、牽引し、ともに発展していくという役割もあると考えるべきだと思います。次の世代も見据え、今、中核市移行を選択することが必要であると思います。

また、本市の人口は20万人を下回っていますので、中核市に移行できるのは平成27年度から5年間に限られています。今、手続きをしなければ、将来、人口が再び20万人に回復していくことは難しい状況にあると思いますので、今こそ中核市に移行し、人口がこれ以上減少せず、むしろ増加していくような取り組みを力強く進めていかなければならないと思っています。ぜひともご理解いただきますよう、よろしくお願いします。

(地元意見)

中核市に移行して、一番大きく変化するのは保健所の統合だと思います。現在、鳥取市の機関として中央保健センターがありますが、県の業務が市に移譲されると、東部、中部、西部に集約されている業務がそのまま鳥取市の保健所に移行すると考えてよいのでしょうか。東部の4町も管轄するのでしょうか。

(中核市推進局長)

現在、鳥取県は大きく分けて、東部、中部、西部に保健所があり、東部には2つの事務所があります。一つは県立中央病院の隣にある福祉保健事務所で、ここでは福祉や医療等の業務を扱っています。もう一つ、立川町にある東部生活環境事務所では各種許認可、産業廃棄物等を所管しています。

県の保健所は現在鳥取市と東部4町を所管していますが、鳥取市が中核市に移行すると、市は独自に保健所を設置しなければならず、東部4町が残ることになります。これでは専門的な人材を確保する上でも無駄が生じるため、県と市で話し合っ、東部4町の業務を鳥取市が受託することになりました。結果的に、県が行っていた保健所業務はそのまま鳥取市に移管されることになります。

ただし、県は2つの事務所で保健所業務をしていましたが、鳥取市はこれらを現在の駅南庁舎1か所にまとめようと考えています。それに加え、ここに来ていただければ健康づくりのことも子育てのことも全て対応できる「総合拠点」にしていこうと、取り組みを進めているところです。

(地区公民館長)

社地区公民館の耐震補強工事をしていただき、本当にありがとうございました。昨年5月の竣工式以降は利用者がかなり増加し、来館者も増加しました。今までと異なり窓口が1階にあるので、窓口で話して帰られる方もあります。

一番大きなことは、午後3時頃に保育園が終わると、今度はまるで地区公民館保育園が

始まるようで、午後4時頃から5時頃まで保育園児が遊んで帰るのです。仕事にはなりません、保護者が付き添われているので地区公民館を宣伝するととても良い場になっています。

本当にありがとうございました。

8 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

本当に熱心にいろいろな課題や多岐にわたるご質問、ご提言をいただきました。まずもって、心から感謝申し上げます。また、先ほど地区公民館長から、地区公民館の改修により利用者が増えたとお話をいただき、私達も大変嬉しく思っています。むしろ私達の方が感謝申し上げたいと思います。今後も、大いにこの社地区公民館を利活用いただければ大変ありがたいと思います。

また、大変短い時間の中、中核市についても熱心にご議論いただきました。多くのご質問もいただき、ありがとうございます。

コンパクトなまちづくり、今後どうやって公共交通を守っていくかといった大変重要な課題についてもご質問やご意見をいただきました。残念ながら、今後は人口がどんどん増加していくことにはならないと思いますので、これ以上減少しないようにするにはどうすればよいか、そして、人口が徐々に減少していった場合にどのような対応が必要なのかということが重要だと思います。今は、いろいろな所に施設を作るような時代ではなく、それぞれのまちの中心になる所に公共施設や様々な機能を効率的に集め、それを皆が活用するような時代になってきたと思います。そしてそれらの拠点を、公共交通でつないでいくのがコンパクトなまちづくりの大まかな考え方です。そういったまちづくりを、今、全国で進めていこうとしていますし、鳥取市も30年後の将来像に向けて、そのような考え方で計画を作って進めていこうとしています。

公共交通についても、なかなかすぐに決め手になるような解決策は出ないと思います。むしろ、鳥取市から国等にこういった仕組みはどうかと提言していくようなことが必要かと思っています。鳥取市でも、地域でNPO法人を立ち上げ、小さな車両を有償で運行して地域の皆様が利用される取り組みをされている地域が実際にありますので、そういった取り組みも参考にいただければと思います。何よりも、これからは新しい仕組みを考えていかなければならないと思います。そのスタートの一つが、鳥取市南部地域での幹線支線のバス路線の取り組みだったと思います。十分でない点はまだまだたくさんあると思います。どうあるべきか、我々も一所懸命考えていきたいと思っていますので、よろしく願いします。

この地域づくり懇談会に熱心にご参加いただいたことに重ねて心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございました。